

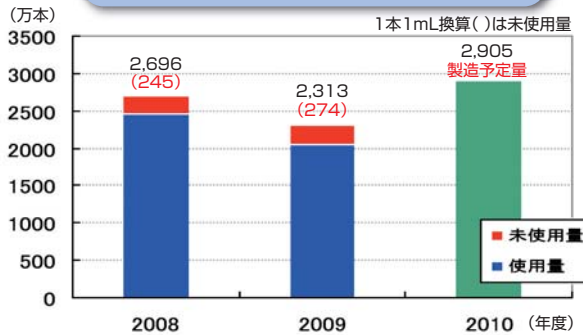
平成22年度インフルエンザHAワクチン製造株 決定

2010年7月9日に、本年度のインフルエンザHAワクチン製造株が厚生労働省より発表されました。今回のワクチンには、新型インフルエンザ(A/H1N1)株が含まれています。

【A型株】	A/カリフォルニア/7/2009(H1N1)pdm	変更
	A/ビクトリア/210/2009(H3N2)	変更
【B型株】	B/ブリスベン/60/2008	

出典：薬食血発第0709第3号
「平成22年度インフルエンザHAワクチン製造株の決定について(通知)」

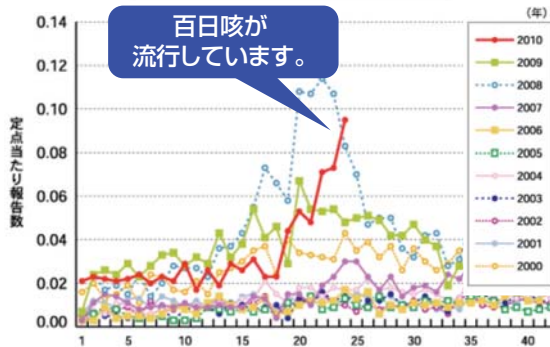
インフルエンザワクチン製造量の推移



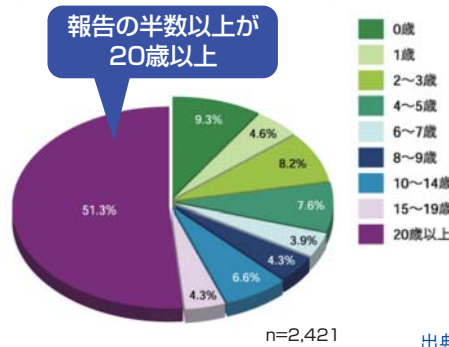
厚生労働省は7月12日に「第13回インフルエンザワクチン需要検討会」を開催し、2010/2011シーズンにおけるワクチンの需要が2,230万本から2,670万本程度であると予測しました。本年度のワクチン製造メーカーの製造量は最大で2,905万本程度となる見込みです。なお、インフルエンザワクチンはウイルスを鶏卵で増殖させて製造することから、ウイルスの増殖力、気温、鶏卵の質等に大きく影響を受けるため、この製造予定量はあくまでも現時点での目安です。

出典：第13回インフルエンザワクチン需要検討会資料

百日咳の年別・週別発生状況 (2000~2010年第24週)



累積報告数の年齢群別割合 (2010年第1~24週)



百日咳診断基準(案)2008

2010年は百日咳の患者報告数がいまだ増加傾向にあり、その半数以上は20歳以上となっています。年長者では特有な咳が見られないこともあり、診断は難しいものとなっています。診断基準は定まっていますが、これまでの報告を参考に「百日咳診断基準(案)2008」が示されています。発症からの期間とワクチン接種歴に注意が必要です。

出典：国立感染症研究所感染症情報センター-IDWR

臨床診断	14日以上のコが、かつ右記症状を1つ以上伴う	1.発作性の咳込み 2.吸気性笛声(whoop) 3.咳込み後の嘔吐	参考	
実験室診断	推奨する検査 発症から4週間以内 菌分離(培養)、遺伝子診断+対血清による血清診断 4週間以降 遺伝子診断+対血清による血清診断	①百日咳菌分離(培養)		
		②遺伝子診断		PCR法またはLAMP法*
		③血清	凝集素価 (低感度のため、WHOでは推奨していない)	DPTワクチン未接種児・者 流行株(山口株)、ワクチン株(東浜株)いずれか40倍以上
			EIA法 抗百日咳毒素抗体(PT-IgG)	DPTワクチン未接種児・者 1EU/mL以上
		DPTワクチン接種児・者または不明	単血清 海外では94EU/mL以上、100EU/mL以上という参考値が示されている。 対血清 確立した基準はないが2倍以上を原則とする。	

臨床診断	臨床症状は該当するが、実験室診断はいずれも該当しないとき
確定診断	1. 臨床症状は該当し、実験室診断の①~③のいずれかが該当するとき 2. 臨床症状は該当し、実験室診断で確定された患者との接触があったとき

*LAMP(Loop-Mediated Isothermal Amplification)法は、現時点では全国数カ所の百日咳レファレンスセンター(国立感染症研究所および地方衛生研究所)でしかできない。特異性が高く、簡便な手法で実施できる。

出典：岡田賢司「百日咳診断基準(案)2008」Ver.2 化学療法の領域2009年増刊号Vol.25, S-1, 2009, p 84(964)-91(971)



企画編集：(財)阪大微生物病研究会 (<http://www.biken.or.jp>)
発行：(財)阪大微生物病研究会/田辺三菱製薬株式会社



▲上記本文中のホームページの内容に関するお問い合わせは、お受けしていません。